
半獣半人の退屈な日々(凍結)

パオパオ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

半獣半人の退屈な日々（凍結）

【Nコード】

N7625V

【作者名】

パオパオ

【あらすじ】

魔物と人間の間にも生まれた主人公は、魔物からも人間からも離れて孤独に生きてきた。

そんな主人公がある日拾った魔物の少女と一緒に、特に何かをするわけでもなく余生を過ごしていくお話……？

ある日記の一節（前書き）

人と獣のハーフな主人公が、弟子（自称）な少女と戯れたり、人と戦ったりするファンタジーです（たぶん）。

基本的には主人公の日常をだらだらと書いていくつもりです。

転生モノとかではないですが、主人公強い（つもり）です。

色々と拙い所もありますが、感想などを貰えるととても嬉しいです。

ある日記の一節

” 魔物……人とは異なる生態系を持つ生命体”

” 生後一月ほどで完全な姿になり、最長でも二十年程でその生涯を終える”

” 人に似た姿形をしているが、その耳と尻尾は人間のものとは異なる”

” 身体能力は人を大きく凌駕しており、集団行動を好む傾向にある”

” 『一族』と呼ばれる集団を形成し、大きいものには数百体の魔物が属している”

” 『一族』は、同種族だけで構成され、別の種族は排斥される（過去の情報より）”

” 『一族』同士の対立も珍しくなく、何件もの事例が報告されている”

” また、魔法を使うことのできる個体も確認されている”

” 種族ごとではなく、個体ごとに魔法が使えるかどうか違ってくるようだ”

” しかし、魔法が使えない個体からですら、人間を超える魔力量が検出されている（一般的な犬型の魔物で、人のおよそ十倍の魔力を保有している）”

” 魔物が短命なのは、強すぎる魔力に振り回されているからなのだろうか？詳細は不明だ”

” 生殖活動は盛んで、基本的には同種族内だけで行っている”

” だが時折、魔物たちは人の集落を襲い、年ごろの娘たちを攫っていく”

” その扱いは悲惨極まりなく、助けられることなど皆無に等しい”

” 娘たちが連れ去られる先は、多くが魔物たちの『一族』のようだ”

”昼夜問わず犯され続け、使い物にならなくなった者は獣を誘き寄せるための餌に使われる”

”普通、『一族』を討伐した冒険者や軍隊が目にするのは、食い荒らされた何人分もの骸だけなのだ”

”……ゆえに、私が助かったのは、単に運が良かったからだろう”

”村を襲った魔物たちに友人と共に攫われ、近隣の『一族』へと運ばれた”

”私たちはそこで何度も何度も犯され、痛めつけられ続けた”

”冷たくなった友人からどこかへ運ばれていったのを、私は途切れがちだった意識の中でも覚えていてる”

”そして私が限界を越えかけた時、『一族』を討伐にやって来た冒険者たちが、『一族』の男たちを殺していった”

”冒険者たちは『一族』の女子供を除いたすべてを殺戮し、略奪し、破壊した”

”残された『一族』の女子供は、腕を繋がれ首輪を着けられ、冒険者たちに連れて行かれた”

”彼らがどうなったのかは知らないが、おそらくは奴隷にでもなったのだろう”

”人と似た姿をしている魔物たちは、愛好家たちの間でかなりの人気があるらしい”

”子供の場合は力が強いいため、一から教育すれば優秀な奴隷になるようだ”

”結局私は冒険者たちに助けられる格好になったわけだが、ここで一つ、大きな問題があった”

”度重なる強姦の末、私は魔物の子を孕んでいたのだ”

”それに気付いたのは助けられてから半年後、連れられた都市で新しい生活を始めた直後だった”

” 都市に来てからあまり体調が良くない日が多かったが、それは村との環境の違いだろうと思っていた”

” お腹が不自然に大きくなり出し、体内に異物感を感じる日が増えたため、遂に私は周囲に相談した”

” お世話になつていゝる宿屋の女主人に誤魔化しながら聞いたところ、これは妊娠時によくみられる症状なのだそうだ”

” 当然のことながら、世話になつていゝる女主人にそれ以上に深い相談など出来るはずもなかった”

” 魔物の子を孕んだなどと誰かに知られた日には、私は研究所か何かで実験動物扱いされてしまうのが落ちだった”

” もし私がこのままここに居たのなら、宿屋にも迷惑がかかるのは明らかだった”

” だから私は、世話になつた礼を手紙で残して都市を出た”

” 魔物との子とはいへ、授かった命の粗末にしたくはなかった”

” 重い体を引きずつて当て所もなく彷徨つた末に、私はあの『一族』の廃墟に辿りついた”

” 私はそこで、焼けずに放置された一つの建物を見つけた”

” その建物は隠し倉庫のようなものだったらしく、少なくとも食料と衣類を見つけた”

” 周囲を探索したりしながら、一か月をそこで過ごし、出産の日が近づいていった”

” そして、村で何度も出産に立ち会つたおかげか、なんとか問題なく私は子を産むことができた”

” しかし、その日から私の体力はみるみる落ちていった”

” 不衛生な環境での出産で病気にでもかかったのだろうか、もしくは魔物の子を生んだからだろうか”

” 正確な理由はわからないが、どうやら私は自分の息子の成長を見ることが叶わないようだ”

” 私は、私の知る限りの知識を書いた日記をこの子に託す”

” もしかしたらこの子はこれを読むことはできないかもしれない”

”その可能性は決して低くはないだろう”

” だけどそれでも構わない”

” なぜならこれは、私の自己満足のよつなものだから”

” 筆者 ヴィラージュ・ドゥルル”

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7625v/>

半獣半人の退屈な日々(凍結)

2011年11月17日00時00分発行